

単元名 【旧】日本の諸地域

配当時間 33時間

単元の目標 (1) 九州地方、中国・四国地方、近畿地方、中部地方、関東地方、東北地方、北海道地方の地域的特色や地域の課題とともに事象間の関係性を理解することができる。

(2) 日本の諸地域において、各地方に考察のしかたを設定し、地域的特色ある地理的な事象を他の事象と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現することができる。

(3) 日本の諸地域について、よりよい社会の実現を視野に、そこでみられる地域の課題を主体的に追究しようとする。

旧教科書を用いた展開例

11220201_001

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 日本の7地方区分についてのイメージを話し合い、単元の学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日本の七つの地方について、知っていることを発表しよう。 ○それぞれの地方について知っていることを発表し合う。 ○単元の学習問題をつかむ。 ●日本の七つの地方には、どのような地域的特色があるのだろう。 ○地理的な特色を追究するためのテーマについて話し合い学習計画を立てる。 「自然環境」「人口」「歴史的背景」「産業」「交通・通信」「持続可能な社会づくり」 <p>2 九州地方の自然環境や人々の関わりについて調べる。</p> <p>★九州地方の自然環境や人々の生活には、どのような特色がみられるのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○九州地方の地形について調べる。 ○九州地方の人口の分布について調べる。 ○温暖で雨の多い九州地方の気候について調べる。 ○小単元の学習問題をつかむ。 ■九州地方では自然環境をどのように生かして生活しており、環境保全に関してどのような課題があるのだろう。 <p>3 自然環境に影響を受ける人々の生活について調べる。</p> <p>★九州地方の人々の生活は、火山活動や雨の多い気候と、どのようにかかわっているのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○火山と人々の生活について調べる。 ○火山活動を自然の恵みとして生かす取り組みについて調べる。 ○気候と人々の生活の関わりについて調べる。 <p>3 工業の変化と自然環境の保全について調べる。</p> <p>★九州地方の工業は、どのように変化しているのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○北九州工業地帯の発展と公害について調べる。 ○変わる九州地方の工業について調べる。 ○世界の環境首都を目指す北九州市の取り組みについて調べる。 ・かつて公害を経験している北九州市では、持続可能な社会を実現するために、環境保全のための積極的な取り組みをしている。 ○九州地方の学習を振り返り、小単元のまとめをする。 <p>4 自然環境の特色を生かした農林水産業について調べる。</p> <p>★九州地方では、自然環境を生かしながら、どのような農林水産業が行われているのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○九州地方の稲作について調べる。 ○九州南部の畜産業と園芸農業について調べる。 ・平野が広がる北部では、稲作や温暖な気候を利用した 	<ul style="list-style-type: none"> ・教P. 169 ・（地域どうしのつながり、地域） ・それぞれの地方では、地方ごとに異なる社会的課題を見だし、追究していくことを押さえる。 ・教P. 170～P. 172 ・地形や気候、人口の分布、環境保全などに着目させる。（人と自然とのかかわり） ・火山が多いことや、世界最大級のカルデラをもつ阿蘇山があることを押さえる。 ・教P. 170の資料1と教P. 172の資料1から、地形と人口密度の関わりに気付かせる。 ・教P. 171の雨温図を活用させる。 ・教P. 168～P. 169 ・火山活動や大雨による被害に加えて、火山や気候によるめぐみにも着目させる。（人と自然とのかかわり） ・桜島は、現在でもたびたび噴火していることを押さえる。 ・火山の噴出物が積み重なって、シラス台地が形成されていることを押さえる。 ・火山活動が活発な九州地方は、日本有数の温泉観光地であることをつかまさせる。 ・地熱発電が盛んに行われていることを押さえる。 ・九州地方では、大雨による災害がたびたび発生していることを押さえる。 ・教P. 173～P. 175 ・工業生産の変化や、自然環境の回復・保全に向けた取り組みに着目させる。（地域） ・小学校で学習した公害について発表させてもよい。 ・教P. 173を活用して、九州地方の工業は、鉄鋼の生産が盛んであったが、エネルギーが石油に変わったことで、大きな転換期を迎えたことを押さえる。 【評】北九州市や水俣市などで行われている環境保全のための取り組みについて調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・教P. 172, 教P. 176～P. 177 ・気候や土壌の特色、消費地との関係、過疎化の影響などに着目させる。（人と自然とのかかわり） ・教P. 172を活用させる。 ・温暖な気候を利用して、二毛作が盛んであることをつかまさせる。 ・教P. 172を活用させる。

二毛作が行われている。また、南部では、温暖な気候を利用した園芸農業や、水が少なくやせた土地でも育つさつまいもの栽培、畜産業が盛んに行われている。
○環境保全と農業・漁業との関係について調べる。

- 5 自然環境を生かした南西諸島の観光業について調べる。
★なぜ南西諸島にはたくさんの観光客が訪れるのだろう。
○沖縄の歴史と独自の文化について調べる。

○さんご礁を例に、自然環境を生かした観光業と環境問題について調べる。

○さんご礁を守る取り組みを例に、環境保全と観光の両立を目指す取り組みについて調べる。

- 6 中国・四国地方の自然環境について調べる。
★中国・四国地方の自然環境や人々の生活には、どのような特色がみられるのだろう。

○中国・四国地方の三つの地域について調べる。

○山陰の地形・気候と人口の分布について調べる。

○瀬戸内の地形・気候と人口の分布について調べる。

○南四国の地形・気候と人口の分布について調べる。

○小単元の学習問題をつかむ。

■中国・四国地方の人口や都市・村落には、どのような課題があり、解決に向けてどのような取り組みが行われているのだろう。

- 7 人口分布のかたよりと人々の生活について調べる。
★中国・四国地方の人口はどのように分布していて、どのような課題があるのだろう。
○人口が集中する瀬戸内について調べる。

○過疎化が進む地域の現状について調べる。
・政令指定都市の広島市や岡山市、工業が盛んで石油化学コンビナートがある瀬戸内には人口が集中しているが山間部や瀬戸内海の島々は過疎化が進んでいる。

- 8 都市部や農村部を結ぶ交通網について調べる。
★中国・四国地方の交通網の整備は、人々の生活をどのように変化させたのだろう。
○東西を結ぶ交通網の整備と地域の変化について調べる。
○南北を結ぶ交通網の整備と地域の変化について調べる。

○交通網の整備による光と影について調べる。
・交通網の整備は、短時間で広範囲の移動が安定して可能となったことで工業や観光業などが発展した。一方でフェリーなどの廃止により生活が不便になった人がいたり、買い物客の都市部への流出により地元の商店が衰退したりするなど、人々の生活に様々な影響を与えている

- 9 地域に根差した農業と作り手の人々について調べる。
★中国・四国地方の過疎地域では、特色のある農業をどのように地域活性化に生かしているのだろう。

○自然環境を生かした中国・四国地方の農業について調べる。
○農産物を活用した地域活性化について調べる。

【評】九州地方の北部と南部、それぞれの農業の特色を生み出している理由を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

・過疎化が進んでいる地域では、耕作放棄地が増えることに気付かせる。
・水質汚濁や干拓事業によって、漁業に大きな影響が及ぶことをつかませる。
・教P. 178～P. 179
・南西諸島の自然環境や独自の文化がもつ魅力に着目させる。（人と自然とのかかわり）
・歴史的背景から、沖縄県が独自の文化を発展させた理由に気付かせる。
・観光客は、温暖な気候と美しい自然を目的として南西諸島を訪れることをつかませる。
・観光客が訪れることによって、環境問題が生じてしまうことに気付かせる。
・教P. 182～P. 184
・地形や気候、人口の分布、三つの地域の特色の違いなどに着目させる。（人と自然とのかかわり）
・山陰は日本海側の気候区分、瀬戸内は瀬戸内の気候区分、南四国は太平洋側の気候区分に属していることをつかませる。
・松江の雨温図から、冬の降水量が多いことをつかませる。
・南北の山地によって季節風がさえぎられるため、1年を通じて降水量が少ない地域であることをつかませる。
・梅雨や台風の影響で、風水害が起りやすい地域であることをつかませる。

・教P. 185～P. 189
・過疎地域・過密地域における人や物資の動きに着目させる。（地域どうしのつながり）
・教P. 185を活用して、工業が盛んな地域に人口が集中していることをつかませる。
・教P. 188～P. 189を活用して、過疎地域の現状を調べさせる。
・過疎地域では、公共施設の統廃合や産業の衰退から、過疎化がさらに進んでいることに気付かせる。

【評】中国・四国地方の山陰・瀬戸内・南四国の三つの地域における人口分布の特色を読み取る活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・教P. 190～P. 191
・人々の生活が便利になった点と不便になった点に着目させる。（地域どうしのつながり）
・交通網の整備が、過疎地域の活性化につながることをつかませる。
・教P. 190の資料3を活用して、高速道路や鉄道を利用して本州と四国を移動する人が多いことに気付かせるとともに、交通網の整備が本州と四国の移動者数、移動時間などに大きな影響を与えていることを押さえる。
・離島が多い瀬戸内では、旅客船やフェリーの廃止で生活が不便になった人がいることに気付かせる。

【評】交通網の整備により地域の人々の生活に与えた影響を、成果と課題の両面から考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

・教P. 184～P. 185、教P. 189
・地域ブランド化や輸送手段の変化などから、消費地・消費者との関係に着目させる。（地域どうしのつながり）
・南四国では、1年中温暖な気候を生かし、促成栽培が盛んであることを押さえる。
・農業従事者の高齢化や後継者不足に対応するため、品種改良をしたり、地域ブランド化を

- 農産物・水産物の輸送手段の変化について知る。
- 地域の魅力を生かした地域活性化について調べる。
 - ・グリーンツーリズム
 - ・エコツーリズム
 - ・Uターン
 - ・Iターン
- 中国・四国地方の学習を振り返り、小単元のまとめをする。
- 10 近畿地方の自然環境と人々の関わりについて調べる。
 - ★近畿地方の自然環境や人々の生活には、どのような特色がみられるのだろう。
 - 中部の平地と南北の山地について調べる。
 - 三つの地域で異なる気候について調べる。
- 自然環境と人々の生活について調べる。
- 小単元の学習問題をつかむ。
 - 近畿地方の古くからの歴史は、人々の生活にどのような影響をあたえているのだろう。
- 11 現在にいきづく歴史的都市の特色について調べる。
 - ★歴史的都市である京都や奈良には、どのような特色があるのだろう。
 - 京都・奈良の歴史的な街なみについて調べる。
 - 歴史的な街なみの保存について調べる。
 - 千年の歴史をもつ京都について調べる。
 - 世界中から来る観光客のおもてなしについて調べる。
 - ・京都・奈良では、基盤の目のような道路や道路の名前、茶道や華道など、その特色が日常生活の中で維持され引き継がれている。
- 11 豊かな魅力を生かした地域活性化について調べる。
 - ★中国・四国地方の過疎地域では、どのように地域の魅力を生かした地域活性化を進めているのだろう。
 - 地域の魅力を生かした地域活性化について調べる。
 - 農村と都市の交流による地域活性化について調べる。
 - 中国・四国地方の学習を振り返り、小単元のまとめをする。
- 12 大阪湾に面した都市と世界との結び付きについて調べる
 - ★近畿地方は、歴史的に世界とどのような結びつきをもってきたのだろう。
 - 日本の窓口として大阪湾について調べる。
 - 水の都、大阪の発展について調べる。
 - 世界への窓口となった神戸について調べる。

- はかったりしていることをつかませる。
- ・生産者が加工や販売などにも取り組む「第6次産業」化が進んでいることを押さえる。
- ・旧教科書では、P. 191で触れられている内容のため、本州四国連絡橋や高速道路の開通により、輸送時間が短縮されたことを押さえる
- ・新教科書の次時の内容であるが、旧教科書には該当ページがないため、過疎地域が農業を生かした地域活性化以外に取り組んでいることとして紹介する。
- ・教P. 194～P. 197
- ・地形や気候、人口の分布、地域の歴史などに着目させる。（人と自然とのかかわり）
- ・地形と季節風の影響によって、三つの地域で大きく気候が異なることを押さえる。
- ・教P. 195の尾鷲の雨温図から、南部の降水量の多さに気付かせる。
- ・地形と気候の違いが、それぞれの地域の人々の生活に影響を与えていることをつかませる
- ・自然環境の影響の一つとして、特色のある農林業についても調べさせる。
- ・教P. 198～P. 199
- ・かつて首都であった歴史が、地域の景観や文化にどのように影響しているのかに着目させる。（地域どうしのつながり）
- ・教P. 196の資料5を活用して、近畿地方には重要文化財が集中していることをつかませる
- ・京都や奈良では、町屋の内装を工夫して、レストランや喫茶店、宿泊施設などの活用をすることで、歴史的な街なみを維持していることを押さえる。
- ・京都の周辺では、都市に住む住民のために野菜を育てる近郊農業が盛んになったことを押さえる。
- ・新教科書の内容であるが、旧教科書には該当項目がないため、外国人観光客の増加に対応するため、外国語で対応できる周遊ガイドを育成したり、観光客向けツアーを実施してしたりしていることを紹介する。
- 【評】京都や奈良の歴史的都市としての特色を調べまとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・教P. 188～P. 191
- ・地域活性化によって、地域がどのように変化しているのかに着目させる。（地域）
- ・過疎地域は、豊かな自然環境に恵まれ、都市部に比べて生活費用が安いなどの利点があることをつかませる。
- ・UターンやIターンで都市部などから移住する人が増えていることをつかませる。
- ・教P. 200～P. 201
- ・時代とともに移り変わる結び付きの形が、地域の産業や文化に与えた影響に着目させる。（地域どうしのつながり）
- ・大阪は、江戸時代に日本の商業の中心であったことから、「天下の台所」をよばれていることを押さえる。
- ・神戸は国際貿易港として開港した都市であることから、外国の影響を受けた都市文化がみ

- 13 伝統を生かした産業と世界進出について調べる。
 ★歴史や伝統を生かした産業から、新たな技術がどのように生まれてきたのだろう。
 ○転換期をむかえる阪神工業地帯について調べる。
 ○世界を目指す企業と伝統産業の取り組みについて調べる。
- 都市の発展を支えた林業について調べる。
 ・近畿地方の工業は中小企業が多く、他の地方と比べ競争力が弱い。また、林業では高齢化も進んでいる。これらの課題の解決に向けて、伝統工業や林業を観光資源として活用していく方法を考えていきたい。
- 14 中部地方の学習を振り返り、小単元のまとめをする。
 14 中部地方の自然環境と人々の関わりについて調べる。
 ★中部地方の自然環境や人々の生活には、どのような特色がみられるのだろう。
 ○「日本の屋根」のある中部地方について調べる。
- 三つの地域の気候の特色について調べる。
- 小単元の学習問題をつかむ。
 ■中部地方の三つの地域では、それぞれどのような特色のある産業が発達していて、どのような課題があるのだろう。
- 15 日本を支える工業の中心である東海について調べる。
 ★なぜ東海では、自動車工業をはじめとした工業が盛んなのだろう。
 ○自動車工業の盛んな東海について調べる。
 ○なぜ東海の工業が発展したのかについて調べる。
- 自動車工業の課題について調べる。
- 16 交通網の整備による中央高地の産業の変化について調べる。
 ★中央高地の産業は、どのように変化しているのだろう。
 ○地形や気候に適応した特色のある農業について調べる。
- 中央高地の工業の変化について調べる。
 ○リゾート地としての発展について調べる。
 ・農業は、夏の冷涼な気候を生かし、他の地域の生産時期とずらして野菜を生産することで、付加価値を付け出荷量を増やすことができた。また、生産した農作物を高速道路を利用することで、新鮮なうちに三大都市圏に運ぶことができ、消費量を拡大させることにつなげることができた。
 ・工業や観光業は、交通網の発達により、物流や人の流れが大きくなったことが、その発展の大きな理由となっている。
- 16 歴史を生かした観光業の推進について調べる。
 ★近畿地方では、歴史的な景観や文化財の保全と観光をどう両立させているのだろう。
 ○世界中からくる観光客のおもてなしについて調べる。
- 歴史的な街なみの保存について調べる。

- られることをつかませる。
- ・教P. 202の7行目～10行目を活用して、神戸では、外国の影響で肉食文化をいち早く受け入れ、但馬牛（神戸牛）の飼育が盛んになったことを押さえる。
 - ・1995年に阪神・淡路大震災によって大きな被害を受けたことを押さえる。
 - ・教P. 202～P. 203
 - ・都市と結び付いて発展した産業の特色や、世界への進出に着目させる。（地域）
- ・新教科書の次時の内容であるが、旧教科書には該当ページがないため、近畿地方には、他の企業にはない優れた技術力やアイデアを生かして製品を作っている企業があることや中小企業の仲間にも世界的なシェアを誇る工場があることをなどを紹介する。
- 【評】近畿地方の産業が抱える課題と解決に向けた取り組みについて考察する活動を通して「思考・判断・表現」を評価する。
- ・教P. 206～P. 208
 - ・地形や気候、人口の分布、産業などに着目させる。（人と自然とのかかわり）
 - ・「日本の屋根」が太平洋側の東海と日本海側の北陸をへだてていることをつかませる。
 - ・海流や季節風、地形などの影響によって、三つの地域の気候が大きく異なることをつかませる。
- ・教P. 209～P. 211
 - ・三大都市圏との位置関係や、工業製品・部品の輸送に着目させる。（地域どうしのつながり）
 - ・小学校で学習した自動車工業について知っていることを発表させてもよい。
 - ・教P. 209の資料3やP. 210の資料を活用して、東海は三大都市圏に近く、工業製品や部品の輸送に便利な位置にあることが、発展した理由の一つであることに気付かせる。
 - ・国内での販売台数が減少していることをつかませ、どのように競争力を維持しているかとして調べる。
 - ・教P. 212～P. 213
- ・中央高地と三大都市圏との位置関係、交通網の整備に着目させる。（地域どうしのつながり）
 - ・冷涼な気候を生かした高原野菜や、盆地の周辺の扇状地を利用した果物の栽培など、地形や気候を生かした農業を行っていることをつかませる。
- 【評】中央高地の農業・工業・観光業の特色を自然環境や交通網と関連付けながら考える活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・教P. 202～P. 205
 - ・街なみや歴史的遺産の活用方法、保存制度に着目させる。（地域）
 - ・外国人観光客の増加に対応するため、外国語で対応できる周遊ガイドを育成したり、観光客向けのツアーを実施したりしていることを

- 近畿地方の学習を振り返り、小単元のまとめをする。
- 17 自然環境からみた北陸の農業や工業について調べる。
 - ★雪が多い北陸では、どのように農業や工業を発展させてきたのだろう。
 - 水田単作の米作りについて調べる。
 - 伝統産業・地場産業の課題と取り組みについて調べる。
 - 日本の電力を支えてきた中部地方について調べる。
- 18 消費地と結び付く農業・漁業の戦略について調べる。
 - ★なぜ東海では、特色のある農業や漁業が発展したのだろう。
 - 静岡県の茶の生産と消費地との結び付きについて調べる
 - 温暖な気候と交通網を生かした園芸農業について調べる
 - 焼津港の漁業と消費地との結び付きについて調べる。
 - ・比較的気候が温暖な渥美半島や静岡県沿岸部では園芸農業や茶・みかんが特産となっており、高速道路などの交通網を利用すると、三大都市圏に短時間で新鮮なうちに出荷できる位置にあるため。
- 19 知多半島のどこに工場を建設するか考える。
 - ★知多半島のどこに工場を作るとよいか考えよう。
 - 東海で工業が発展した理由を表に整理する。
 - 知多半島のどこに工場を建設するとよいか考える。
 - グループで話し合い、工場の建設予定地を決める。
 - ・陶磁器工場をCの候補地に建設したい。なぜなら、陶磁器の生産地に近く、国道や高速道路、空港も近いから遠方にまで輸送できると考えたから。
 - 中部地方の学習を振り返り、小単元のまとめをする。
- 20 関東地方の自然環境と人々の関わりについて調べる。
 - ★関東地方の自然環境や人々の生活には、どのような特色がみられるのだろう。
 - 低地と台地からなる関東平野について調べる。
 - 乾燥した冬と暑い夏について調べる。
 - 小単元の学習問題をつかむ。
 - 関東地方の多くの人々の活発な活動は、他の地方や外国と、どのようなつながりがあるのだろう。
- 21 世界都市、東京と日本や世界の結び付きについて調べる
 - ★東京は、日本や世界のなかで、どのような役割を果たしているのだろう。
 - 日本の首都・東京について調べる。
 - ・東京は、日本の政治や経済の中心であり、学術施設や

- つかませる。
- ・京都や奈良では、町屋の内装を工夫して、レストランや喫茶店、宿泊施設などの活用することで、歴史的な街なみを維持していることを押さえる。
- ・教P. 214～P. 215
- ・冬に雪の多い地域で、雪とどのように向き合ってきたのかに着目させる。（人と自然とのかかわり）
- ・北陸は日本有数の米どころであるが、それは自然環境の影響だけでなく、農地の整備や土壌改良など人々の努力の成果であることをつかませる。
- ・北陸地方の伝統産業や地場産業は、冬の間の農家の副業や江戸時代の特産品から発展したことをつかませる。
- ・中部地方で発電された電力の多くは、近畿地方や関東地方に供給されていることから、日本の電力を支えていることに気付かせる。
- ・教P. 211
- ・東海の農業や漁業について他地域との結び付きに着目させる。（地域どうしのつながり）
- ・台地では、日当たりと水はけがよいことから茶の栽培が盛んであることをつかませる。
- ・温暖な気候と輸送の便のよさから園芸農業が発展した地域であることをつかませるとともに、水不足に悩んできた半島は、かんがいのための用水をつくり農業を発展させたことを押さえる。
- ・新教科書P. 217の内容であるが、旧教科書には該当ページがないため、代表的な漁港である焼津港を紹介する。焼津港は、消費者の魚介類ばなれなどによって消費量が減少しているという課題を克服するために、料理の手間をはぶく水産加工品に加工して販売するなどの努力をしていることや、高速道路に近いため、大消費地に魚介類や水産加工品を運びやすい漁港であることなどを紹介する。
- 【評】中部地方で特色ある産業が発達した理由を、自然環境や交通網の発達と関連付けて考察する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・新教P. 218～P. 219
- ・旧教科書にはない内容であるが、知多半島が題材となっている活動のため、新教科書を活用して取り組ませる。
- ・産業の発展には、地形や交通網の整備などが関係していたことを踏まえて考えさせる。
- 【評】学習した知識を基に、工場建設候補地について話し合い、自分の考えをまとめる活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。
- ・教P. 218～P. 220
- ・地形や気候、人口の分布、土地利用などに着目させる。（人と自然とのかかわり）
- ・関東地方の内陸部には、火山灰が積もってきた赤土（関東ローム）におおわれた台地が広がっていることを押さえる。
- ・広い平野のある関東地方では農業が盛んであることや、広い範囲で都市化が進み、日本で最も人口が集中していることなどをつかませる。
- ・海流や季節風、地形などの影響によって、夏は蒸し暑く、冬は温暖な気候となっていることをつかませる。
- ・教P. 222～P. 223
- ・日本の各地方や世界の国々と東京都の関係に

文化施設なども集中しているため一極集中が進んでいるが、人や物資、情報が東京に集中することは、地方の活力が失われる原因の一つとなっている。

○世界都市・東京について調べる。

○日本や世界との交通・通信の結びつきについて調べる。

22 東京大都市圏の人々の結びつきについて調べる。

★東京とその周辺の地域は、どのように結びついているのだろう。

- 東京の都心と副都心について調べる。
- 郊外の住宅地の広がりについて調べる。

- 過密化を解消するための取り組みについて調べる。
 - ・中心都市の人口が増加すると、その住宅地が郊外に広がり、衛星都市の人口がやがて増加することになる。衛星都市から中心都市に通勤・通学している人も増加し、ラッシュや交通渋滞などの問題も増加していくことになる。

23 大都市圏を支える工業・農業と物資の移動について調べる。

★東京大都市圏の工業・農業は、周辺の地域とどのように結びついているのだろう。

- 臨海部と内陸部の工業地域について調べる。

○大消費地を支える関東地方の農業について調べる。

○関東地方の学習を振り返り、小単元のまとめをする。

24 東北地方の自然環境と人々の関わりについて調べる。

★東北地方の自然環境や人々の生活には、どのような特色がみられるのだろう。

○南北にのびる山地と平地について調べる。

○日本海側と太平洋側で異なる気候について調べる。

○地形や気候を生かした人々の生活について調べる。

○小単元の学習問題をつかむ。

■東北地方の人々は、東日本大震災や産業・伝統文化の変化をどのように乗り越えて、持続可能な社会づくりに取り組んでいるのだろう。

25 農業をとりまく環境の変化と農家の対応について調べる

★東北地方の人々は、農業の変化に対してどのような対応をしているのだろう。

- 東北地方の農業について調べる。

○減反政策と農産物輸入の増加について調べる。

○新たな農業を目指す人々の取り組みについて調べる。

26 伝統文化の維持と革新について調べる。

★東北地方のさまざまな伝統文化や伝統産業は、どのよう

に着目させる。（地域どうしのつながり）

・新教科書P.230～P.231に、一極集中のリスクや防災を考えた都市の再開発など、都市問題の解決に向けての取り組みが書かれているため、一極集中の原因や課題を考えさせたあとに紹介する。

【評】東京の一極集中の原因とその課題について、多面的・多角的に考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

・日本は、世界の政治、経済、文化に大きな影響を与えている国の一つであることをつかませる。

・教P.221を活用して、関東地方はテレビの中心的な放送局や新聞社の企業などが集まり、情報の受信・発信の中心地であることをつかませる。

・教P.224～P.225

・通勤・通学の人の動きに着目させる。（地域どうしのつながり）

・かつては郊外に建設されたニュータウンなどに移り住む人が多かったが、最近は便利さを求めて都心やその周辺にあるマンションなどに引っ越す人が増えていることをつかませる

【評】資料から、都心と郊外の結びつきや都市における諸課題を調べ、まとめる活動を通して、「知識・技能」を評価する。

・教P.220～P.221，教P.226～P.227

・高速道路網を中心とした物流に着目させる。（地域どうしのつながり）

・関東地方は、大消費地や製品を作る大企業の本社などが近いことや、貿易港があることから、工業が盛んであることをつかませる。

・過密化が進んで工業用地の確保が難しくなったことで、内陸部でも工業が盛んになったことを押さえる。

・新鮮な農産物を都市に住む人々に供給する近郊農業や、標高が高い地域の高原野菜の生産が盛んであることをつかませる。

・教P.230～P.233

・地形や気候、人口の分布、自然環境を生かした産業などに着目させる。（人と自然とのかかわり）

・南北にのびる三つの山地だけでなく、世界自然遺産の白神山地や、火山が点在していることも押さえる。

・やませによって冷害がもたらされることを押さえる。

・三陸海岸の沖合は、海流がぶつかる潮目であることから、世界でも有数の漁場になっていること、リアス海岸では養殖業が盛んであることをつかませる。

・教P.232～P.233，教P.236

・農産物の輸入などが進むなかでの人々の対応に着目させる。（地域どうしのつながり）

・東北地方は日本の穀倉地帯であることや、扇状地を使った果樹栽培が盛んであることをつかませる。

・食事の洋食化に伴って減反政策が行われてきた一方で、農産物の輸入が増加していることを押さえる。

・東北地方では、安価な輸入農産物に負けない品質の良い農産物の生産に力を入れているこ

に受け継がれているのだろうか。

- 多彩な祭りや年中行事について調べる。
- 伝統文化を維持する取り組みと観光化について調べる。

- 伝統産業にみられる新たな取り組みについて調べる。
 - ・ 伝統的な街並みを守るために、住民の協力によって維持や保存・修復が進められている。

27 東日本大震災に伴う社会の変化について調べる。

- ★ 東北地方の人々の生活や産業は、震災によってどのように変わったのだろうか。

- 震災がもたらした急激な人口の変化について調べる。

- 震災で大きな影響を受けた農業・漁業について調べる。

- 震災で世界にまで影響がおよんだ工業について調べる。
 - ・ 巨大な津波におそわれた地域では、多くの人が他地域に避難したことで急激に人口が減少した。また、原子力発電所の事故による風評被害で、農業や漁業はその販売が大きく落ち込んだ。他地域とのつながりの中で製品を作っていた工業では、東北地方での生産ができなくなったことで他地域の工業にも影響がおよんだ。

27 都市問題の解決に向けての取り組みについて調べる。

- ★ 東京大都市圏では、過密化にともなうさまざまな課題を克服するために、どのような取り組みを行っているのだろうか。

- 強まる一極集中で高まるリスクについて調べる。

- 防災を考えた都市の再開発について調べる。

- 関東地方の学習を振り返り、小単元のまとめをする。

28 震災からの復興と災害に強い地域づくりについて調べる

- ★ 東北地方の人々は、震災をのりこえて新たな地域をつくるために、どのような活動に取り組んでいるのだろうか。

- 震災を伝承していく取り組みについて調べる。

- 災害に強い地域づくりを目指す取り組みについて調べる。
- 東北地方の学習を振り返り、小単元のまとめをする。

29 北海道地方の自然環境と人々の関わりについて調べる。

- ★ 北海道地方の自然環境や人々の生活には、どのような特色がみられるのだろうか。

- 北の大地の姿について調べる。

- 寒さがきびしく雪の多い冬の気候について調べる。

- 比較的すごしやすい夏の気候について調べる。

- 小単元の学習問題をつかむ。

- 北海道の寒冷な自然環境を、人々はどのように生かした

とをつかませる。

- ・ 教P. 234～P. 237

- ・ 祭りや年中行事の観光化、伝統産業の発展の面から、他地域との結び付きの強まりに着目させる。（地域どうしのつながり）

- ・ 観光化が進む中で、祭りが本来もつ意味を観光客に伝えるなど、伝統文化を守り、育てる取り組みも盛んになっていることを押さえる

- ・ 伝統文化がまちおこし・むらおこしの重要な要素になっている地域もあることを押さえる

- 【評】 古くから続く祭りや伝統的な街並みを守るための取り組みを調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。

- ・ 教P. 233

- ・ 震災によって発生した人口や農業・漁業・工業への変化に着目させる。（地域どうしのつながり）

- ・ 旧教科書にはない内容であるが、東日本大震災を扱った新しい内容であるため、新教科書P. 242～P. 243を活用して取り組ませる。

- ・ 東日本大震災で津波に襲われた地域の人々は他県や他地方に避難しなければならなかったこと、原子力発電所の事故による放射性物質の被害を受けた地域は立ち入り禁止になってしまったことなど、当時の状況をつかませる

- ・ 放射性物質の風評被害で、被災地の農作物や水産物の販売が大きく落ち込んでいたことをつかませる。

- 【評】 東北地方に震災が与えた影響について、多面的・多角的に考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。

- ・ 教P. 230～P. 233

- ・ 関東地方の地域的特色を踏まえて、東京大都市圏の変化に着目させる。（地域）

- ・ 高度な都市機能が集中することで、災害が発生したときのリスクが高まることに気付かせる。

- ・ 災害が起きたときの被害を小さくするだけでなく、どのような被害が発生するかを予測して対応できるような施設を建設するなどの工夫をしていることをつかませる。

- ・ 震災からの復興に加えて、のぞましい地域の姿を目指す取り組みに着目させる。（地域）

- ・ 旧教科書にはない内容であるが、東日本大震災を扱った新しい内容であるため、新教科書P. 244～P. 245を活用して取り組ませる。

- ・ 震災で壊れた建物などを「震災遺構」として残すことや、記録を収集・整理して保存することなど、災害を伝承していく取り組みがあることをつかませる。

- ・ 教P. 242～P. 243

- ・ 地形や気候、人口の分布、気候と人々の生活との関係などに着目させる。（人と自然とのかわり）

- ・ 北海道地方には、火山や火山活動によってできた湖が多くみられることを押さえる。

- ・ 教P. 137の資料を活用して、北海道地方の気候区分が冷帯であることをつかませる。

- ・ 教P. 243の雨温図を活用して、北海道地方の

- り克服したりして生活してきたのか、九州地方と比較しながら追究しよう。
- 30 寒冷な気候に対応した人々の生活について調べる。
★北海道の人々の生活は、寒冷な気候にどのように対応しているのだろう。
○札幌市の発展について調べる。
- アイヌの人々と開拓のあゆみについて調べる。
- 現在の北海道の冬の生活について調べる。
・北海道の家屋の屋根は雪でつぶれてしまわないように斜めになっているものが多いが、札幌市などの都市部では平らな屋根になっている。これは、都市部では雪が屋根から落ちたときに人が通行していると危険だからだと考えられる。
- 31 厳しい自然環境を克服した農業や漁業について調べる。
★北海道の農業や漁業は、寒冷な気候などをどのように克服し、あゆんできたのだろう。
- 自然環境を克服してきた稲作や畑作について調べる。
- 酪農の発展と輸送手段の進歩について調べる。
・北海道の気候は、温暖な地域が原産地の稲の生育には適しておらず、土壌改良や品種改良に取り組むことで全国有数の米の生産地となった。また、北海道は火山が多く、火山灰がつもった土地の改良や輪作を行うことで、畑作が行えるようになった。稲作や畑作には適さない地域では、牧草などの飼料を育てて酪農を行っている。
- 食の安全への対応について調べる。
- 32 自然環境を生かした観光と世界との結び付きについて調べる。
★寒冷な自然環境を生かした観光で、北海道は世界とどのように結びついているのだろう。
- 自然環境を生かした観光や、観光による地域の活性化について調べる。
- 冬の寒さを生かした観光について知る。
- 北海道の観光の課題と、環境保全に配慮した観光の取り組みについて調べる。
- 北海道地方の学習を振り返り、小単元のまとめをする。
- 33 学習を振り返り、単元のまとめをする。
★日本の諸地域を振り返ろう。
○教科書で紹介されている写真を見て、どの地方の写真か考える。
○七つの地方の中から一つの地方を選び、その特色を友達に説明する。
- 37 自然環境との共生をはかるための取り組みについて調べる。
★北海道の人々は、自然環境とどのように共生をはかっているのだろう。
○とる漁業から育てる漁業への変化について調べる。
- 環境保全に配慮した観光について調べる。
○北海道地方の学習を振り返り、小単元のまとめをする。

気候をつかませる。

- ・教P. 244～P. 247
- ・寒冷で雪の多い地域での住宅や道路などの工夫に着目させる。（人と自然とのかかわり）
- ・教P. 244の資料を活用して、北海道地方の人口が減少している一方で、札幌市の人口が増加し続けていることに気付かせる。
- ・教P. 247の資料を活用して、アイヌと北海道地方とのつながりをつかませる。
- ・教P. 246の「スキルUP」を活用して、北海道の冬にみられる生活の工夫を調べさせる。
- 【評】寒冷で雪の多い時期における自然環境に対応する工夫を、資料から多面的・多角的に考察する活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。
- ・教P. 248～P. 249
- ・寒冷な気候や農業に適さない土壌を克服するための取り組みに着目させる。（人と自然とのかかわり）
- ・本来、夏でも涼しい北海道の気候は、農業に適していないことに気付かせる。
- 【評】厳しい自然環境を克服しながら、どのようにして稲作・畑作・酪農が行われているのかについて調べる活動を通して、「知識・技能」を評価する。
- ・生産費用を下げる努力をするだけでなく、「食の安全」に配慮することで、外国産の安価な農産物に対抗しようとしていることをつかませる。
- ・新教科書P. 258を活用して、北海道の漁業の特色として、養殖業や栽培漁業などへの転換が進められたことや、水産資源の保護との両立などを紹介する。
- ・教P. 250～P. 251
- ・自然環境を生かした観光による地域活性化にどのように取り組んでいるのかに着目させる（地域どうしのつながり）
- ・北海道の雄大な自然環境や歴史的な観光資源などを目的とした観光が盛んであることをつかませる。
- ・雪や氷を楽しむ祭りが各地で開催され、日本各地や世界中から観光客が訪れていることを紹介する。
- ・観光と観光資源を損なうことなく活用することの両立や、交通網の充実が課題であることを押さえる。
- ・教P. 254
- ・一つのテーマを選び、そのテーマについて地方ごとの特色を白地図にまとめたり、友達に紹介させたりしてもよい。
- ・教P. 258～P. 261
- ・環境保全と様々な産業を両立させるための取り組みに着目させる。（地域）
- ・地図帳P. 144を活用して、北海道の漁業についてつかませる。

【 備 考 】